この街が好きだから

大須賀一雄　武蔵野スケッチ物語 ㊸

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

吉祥寺東町一丁目付近

これは、吉祥寺東町を歩いている時、シュロの茂る路地の風景が気に入り、すぐに場所を決めて描いたものである。写生中いつも思うことだが、通りを行き交う人達を見ていると、人々の人生模様が垣間見られ、とても面白い。手をつないで歩く楽しそうな親子連れや犬の速度に合わせて動く男性など、のどかな情景は幸せを感じさせる一コマである。

絵が完成に近づいた頃、若い女性がやって来て、絵を見せてほしいと云う。眼の輝きから絵の好きなことが分かる。どうぞ、と云うと絵に関して色々と質問してきた。聞けば、女性は大学生で、卒業後の進路が決まらず悩んでいるとのこと。私は自らの経験を交えて、若い時は二度とないのだから、悔いのない方向を目指し、頑張って下さい、と激励した。別れ際に、とても参考になりました、と女性はお礼を云って、足早に去って行った。

（絵と文　大須賀一雄）

大須賀 一雄（おおすか・かずお）
水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。